

本 研修プログラムは、神戸大学経営学研究科の社会人コース(MBA)のエッセンスをベースにした、中小企業の後継者のための研修プログラムであり、経営者の「経営理論に基づき実践的な問題を解決する能力」を鍛え上げることを目的としています。

本研修では、経営学を体系的に理解し、経営理論を用いて論理的に自社課題を解決するプロセスを学びます。

座学だけでなく、様々な事例によるディスカッションを設け、企業が直面する課題の真因を分析、解決策を導きだします。また、経営学に基づき自社の課題を明確化し、中長期的な視点で変革ができるリーダーシップ力を養います。さらに、自社が将来直面する経営課題を見据え、10年先のあるべき姿を描く作業を実施、近視眼的な経営から、将来志向の経営へ転換できる力を習得します。



学習ステップ

講師による講義

ワーク・ディスカッション
による理解の深耕

自社に照らした
課題の検討

発表とディスカッションを
通じた自社課題検討の深耕

将来のあるべき姿と
実現ステップの明確化



カリキュラム日程

日程	概要
2023年 9 / 1 —金—	両利きの経営の実践と持続的成長 両利きの経営の実践には、しっかりとした理論的知識を踏まえて戦略設計に取り組む必要があることを学ぶ。両利きの経営に取り組む中小企業経営者の講演を通じて、会社の持続的成長のために、何を守り変革すべきか、経営者に求められる企業家精神・活動(アントレプレナーシップ)とは何かについて考える。
9 / 22 —金—	経営者のための会計と利益構造づくり 優れた経営者は「会計を理解していなければ経営はできない」と断言する。経営者として会計をどのように利用するのか、会計を使いこなし儲かるビジネスモデルをどのように構築するのかを学ぶ。
10 / 10 —火—	中小企業のマーケティングとブランド価値創造 自社は顧客にどのような便益・価値を提供しているのか、顧客視点で自社ブランドの価値をとらえ、新たな価値の付加および価値創造の可能性を考える。
10 / 27 —金—	イノベーション創出とアントレプレナーシップ イノベーション創出に向けたヒト・モノ・カネの整合性のある戦略設計について学ぶ。利益を生み出す構造やリスクを理解し、イノベーション創出に求められる経営チームとアントレプレナーシップについて考える。
11 / 10 —金—	自社課題への落とし込み(中間発表・ディスカッション) 10年後の自社は「こうありたい、あるべき姿(規模、事業内容)」を考える。自社の事業機会をDXやプロセス革新等の可能性を踏まえてゼロベースで検討し、発表やディスカッションを通じて新たな気づきやアイデアを得る。

日程	概要
11 / 24 —金—	中小企業の事業承継と新規事業開発 経営資源と後継者のスキル・情熱を基に新規事業に挑戦し、ベンチャー型事業承継を実現した経営者の経験を通じて、事業の可能性を見出す。また、ビジネスアイデアの発想法を活用し、ディスカッション等を通じて、新規事業のタネを考える。
12 / 8 —金—	組織デザインとコントロール、業績評価指標の選択と目標設定 会社を「仕組み」で動かすための管理要素を学ぶ。自社の活動状況・健康状態を客観的に測定・評価する指標の種類、設定、運用方法を学び、自社に適した「仕組み」のデザインを考える。
12 / 22 —金—	SDGs視点の経営と社会課題解決型ビジネス SDGsと企業との関係を環境、地域社会、雇用、自社製品・サービス等、多様な視点で整理。SDGsに対する自社の関連性・貢献、事業変革の可能性を考え、SDGsの視点を経営に取り込んで成功した事例を学ぶ。
2024年 1 / 19 —金—	中小企業に求められるリーダーシップ 創業者、後継者に必要なリーダーシップ、また会社の成長・経営者交替時の従業員管理・人材育成に何が必要かを学び、「ひと」の視点で、リーダーシップ・人的資源管理のあり方について考える。
2 / 10 —土—	最終発表会(最終発表・ディスカッション) 10年後の自社のあるべき姿、自社の事業機会・脅威、自社の強み・弱みをあらためて整理。あるべき姿を実現するために自社の重要な経営課題を考察し、自社に対する経営計画書としてまとめ、講師の指摘や議論を通じて得た新たな気づきやアイデアを加え完成させる。